

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
都市部の公園・北部グループ		(指定管理者名) 公益財団法人 東京都公園協会 (団体の概要) 都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。			
指定期間					
R5.4.1 ～ R10.3.31（5年間）					
2 施設名		3 収支(単位:千円)			
戸山公園・善福寺公園・高井戸公園・浮間公園・赤塚公園・石神井公園・大泉中央公園・練馬城址公園			令和7年度	令和6年度	令和5年度
		項目	金額	金額	金額
		収入 計	1,011,785	911,649	834,954
		内訳 指定管理料	1,011,785	911,649	834,954
		利用料金	0	0	0
		その他収入	0	0	0
		支出 計	1,038,392	908,756	830,322
		収支差	△26,607	2,893	4,632
4 管理運営の概要					
<p>基本理念： みんなが「いきいき」水とみどりのサステナブルパーク</p> <p>【パートナーシップ】 公園がまちの顔に、暮らしの真ん中に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・善福寺公園では、近隣ボランティア団体と連携し、夏季における子どもの安全な遊び環境の確保として、すべり台を含む複合遊具にタープテントを設置し、子どもたちの暑さ負担の軽減と夏季における公園利用の快適性を提供した。 ・高井戸公園では、地元図書館と初連携し、映画上映会やおはなし会など子どもたちに楽しんでもらえるプログラムを提供し、地域コミュニティの活性化に寄与した。 ・大泉中央公園では、都県境に位置する地域特性から、練馬区、埼玉県和光市と行政の枠を超え、公園が主導して「3公園周辺防災あれこれマップ」を制作し、地域住民の防災意識向上と、都県境地域における連携強化に寄与した。 <p>【インクルーシブ】 みんながふらり、気軽にコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸山公園では、地元図書館等と連携し、視覚障害者にも公園や地域の歴史に関する魅力を広く発信し、障害の有無を超えた交流の場を創出した。 ・石神井公園では、地元こども食堂と初連携し、自然体験プログラムを提供するなど、公園が地域の子ども支援に寄与することができた。 ・練馬城址公園では、地元の就労支援センターと連携し、園内で不要となった支柱を再活用したアート木柵を制作し、植込へのごみ投棄抑止と社会参加の機会を提供した。 <p>【レガシー】 自然・歴史資源、時代をつなぐ公園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤塚公園では、近隣自治会との初の合同防災訓練を実施し、地域の防災力向上と連携強化が図れた。 ・樹木点検アプリを活用した計画的な樹木管理等、安全・安心な環境を整えた。 ・公園環境に重大な影響を及ぼしかねない緊急事態に際しても、東京都と連携しながら積極的な提案と対応を行い、公園資源を維持した。 ・ボランティアとの連携で生態系の魅力やモニタリング結果の発信、活動を推進した。 					
5 管理状況					
①維持管理					
<ul style="list-style-type: none"> ・戸山公園では、昨年度より東京都を通じて、箱根山地区多目的広場に自動販売機を設置してほしいと要望があったため、関係各所と情報共有を図りながら、設置を行った。自動販売機を設置することで、夏の暑さ対策のひとつとして利用者に活用していただける環境を整えた。 ・善福寺公園では、上の池のあそび場周辺に芝生スペースを設置するにあたり、子どもたちが安心して遊べるスペースと犬の尿による芝枯れの問題を解決するため創意工夫し、芝生をコンテナの上に設置。砂ぼこりを受けず子どもにも安心なスペースの確保や、ベンチタイプにすることで景観を楽しめるスペースになり来園者のくつろぎの場所となった。 ・高井戸公園では、北地区にて本格始動した「虫たちのレストラン」。今年はそのエコパッチエリアにて刈り取った雑草を再利用し、隣接する区立富士見丘小学校のプールに浮かべる「ヤゴフロート」を作製。公園と小学校がともに環境教育に取り組み、豊かな生態系を維持する過程を通じて新たなきずなやつながりを持つことができた。 ・浮間公園では、浮間ヶ池東側の護岸が崩落したため、安全領域を確保するとともに特約店業者に依頼し、東京都に情報共有をしつつ迅速に補修を実施し、来園者の安全を確保した。 ・赤塚公園では、経年劣化していた番場地区丘陵部踊場の整備や崖線斜面の擬木柵の補修を実施。景観が向上するとともに利用者の安全にも配慮し、快適な公園散策の場を提供した。また、枯損木等の倒木を防ぐため緊急樹木点検を実施。普段は立ち入ることのできないバードサンクチュアリ崖線部を含め園内全域約3,000本の樹木を点検。枯損木は適宜処理を行い、安全管理を徹底した。 ・石神井公園では、野外ステージにある階段式観客席を活用し、来園者が気軽に過ごせる「くつろぎ階段」の場を提供した。実施にあたり、階段中央部をクエン酸を用いて洗浄し、清潔で快適な空間を創出。また、周辺の枯れ枝や掛かり枝を取り除くことで、安全性にも配慮した。 ・大泉中央公園では、園内花壇に、マルチング材(根覆い)として段ボールを導入。段ボールマルチの導入区画では、約一か月間除草作業をしていないにも関わらず雑草がほとんど生えず、花苗に関しては、連日35℃を超える酷暑かつ降水量も平年より少ない中、2日に1回程度の灌水で枯死・しおれもほとんど無く順調に生育した。段ボールマルチ導入による雑草抑制・保水力の向上で、鑑賞・蜜源用花苗の健全な生育と除草作業の人工の削減ができたことに加え、数カ月で土に還ることが判明し、循環型維持管理の一手法の確立の第一歩となった。 ・練馬城址公園では、東京都を通じて、屋外時計を設置してほしいという要望について、仕様等を東京都と共有を図りながら、トイレの外壁に時計を設置した。時計を設置することで、利用者が快適に利用できる環境を提供できた。 					

②利用者への対応

・戸山公園では、地域住民との多世代交流も図れ、視覚障害者も参加できるイベントを実施。公園が誰にも開かれた交流拠点として機能し、インクルーシブ意識の醸成に寄与し、障害の有無を超えた交流の場を創出できた。

・善福寺公園では、夏季における子どもの安全な遊び環境の確保を目的として、近隣ボランティア団体と連携して複合遊具にタープテントを設置し暑熱対策を行い、子どもたちの暑さ負担の軽減と夏季における公園利用の利便性向上につなげた。

・高井戸公園では、『おおぞら会議シールアンケート』で寄せられた「休憩スペースの拡充」への要望や、近隣小学校PTAからの旧管理所利活用に関する相談を受け、夏は『涼み処』、秋冬は『こども図書室』として再整備し、利用者ニーズに基づく柔軟な空間活用により、公園の利便性向上と地域との関係強化に大きく貢献した。

・浮間公園では、地域住民の「公園でやってみたいこと」を募集し野外映画上映会を開催する等、地域のニーズに合わせてイベントを企画し地域の活性化につなげた。

・赤塚公園では、地元住民の意見を反映した事業を積極的に実施し、公園の魅力向上と地域住民が公園づくりに主体的に関わり、公園の地域利活用の促進につなげた。

・石神井公園では、近隣小学校との防災訓練や図書館職員やボランティア向けの防災勉強会を積極的に行い、地域の防災に対する意識向上につなげた。

・大泉中央公園では、都県境に位置する地域特性から、行政の枠を超えて防災施設の位置情報を把握したいとのパークミーティングでの意見を受け、公園が主導して「3公園周辺防災あれこれマップ」を制作。周辺地域に点在する防災関連施設の位置情報を整理し、地域住民の防災意識向上と、都県境地域における連携強化に寄与する取組みが図れた。

・練馬城址公園では、パークミーティングで把握した“夜間の園内不適正利用の是正”という地域ニーズに対し、町会や近隣学校の保護者と夜間パトロールを実施。地域住民が日常的に公園を見守る意識が高まり、地域と一体となった安全管理体制の構築が図れた。

6 利用者アンケート結果

実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
戸山公園	4.9	4.8	4.6	4.9	4.9
善福寺公園	4.8	4.6	4.6	4.8	4.9
高井戸公園	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9
浮間公園	4.9	4.9	4.6	4.8	4.9
赤塚公園	4.9	4.8	4.7	5.0	4.9
石神井公園	4.8	4.7	4.5	4.7	4.8
大泉中央公園	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7
練馬城址公園	4.5	4.5	4.6	4.4	4.8

7 入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
戸山公園	1,032,515	土壌汚染対策工事に伴う園内の一部閉鎖を解除したことで、来園者の通行動線が確保され、入園者数が増加した。
善福寺公園	758,388	夏季の日よけテント設置実験など地域に根付いた公園管理を実施し、昨年と同様の入園者数であった。
高井戸公園	536,241	北地区の旧管理所を活用した夏季の涼み処やイベント実施により、昨年と同様の入園者数であった。
浮間公園	1,205,442	いたばし花火大会会場への観客動線変更やライトアップ終了などの影響により減少した。
赤塚公園	724,536	キッチンカー利用者に向けたテーブルやイスの設置など、地域の声を活かした取組により、昨年と同様の入園者数であった。
石神井公園	2,078,901	公園マイブランや「くつろぎ階段」など、地域の声を活かした取組と、SNSフォロワー数約120％に増加などで、入園者数が微増した。
大泉中央公園	222,790	競技場の工事などで、通常のジョギング利用者が減少により入園者数が微減した。
練馬城址公園	1,587,396	開園3年目となり、地域と連携して様々な事業やイベント展開により、昨年と同様の入園者数であった。
合 計	8,146,209	



戸山公園

多様な世代や国籍、文化が交わる
活気あふれる公園



所在地：新宿区大久保三丁目、戸山一・二・三丁目／開園面積：18.6ha

地域コミュニティとの連携によって、インクルーシブな交流の場を創出

NEW 視覚障害者のための歴史ガイドツアーを開催

視覚障害者が公園を楽しめるよう、戸山図書館等と連携し3D地図を用いた歴史散歩を初開催した。触覚案内や花の香りを楽しみつつ参加者交流も生まれ、インクルーシブな地域づくりに寄与した。



3D模型～場所を指で確認～



辿ったコースを立体地図で確認

Update 誰もが参加できる音楽会の実施

地域4団体と連携し、多世代参加の音楽・ダンスイベントを実施。障害者の方々が受付・司会等で運営参画する体制を整え、参加者との交流機会が昨年度より広がり、共生社会の促進に寄与した。



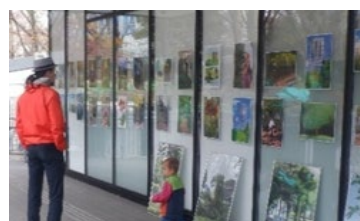
手話による歌唱



子どもたちによるダンス

近隣専門学校との新規連携で利活用推進

NEW 学生が描く公園風景の絵画展開催



小さなお子さんも見学に



まるで写真のような学生たちの作品



近隣専門学校と連携し、公園風景を紹介するデジタルイラスト展を初めて開催。今まで接点のなかった学校にも積極的にアプローチして協力を取り付け、地域連携の幅を広げた。「リアリティを持った背景がイラストの世界に命を吹き込む」という担当教員の説明に、観覧の小学生が共感するなど、絵画を通じて触れ合いが生まれ、同時にSCテラスの利活用推進が図れた。

多彩な公演の実現で公園の魅力向上と地域で楽しむ演劇文化が定着

Update 3年目を迎えた箱根山演劇祭

箱根山演劇祭は3年目を迎え、高校生パフォーマンスや観客参加型作品など多彩な公演が好評を得た。SNSでは開放的な会場環境も評価されたほか、日頃から関係を築いている地元自治会掲示板での広報も展開し、観客1,394人（昨年度比231.2%）が来場した。「野外演劇といえば戸山公園」と演劇祭の定着と認知向上が図れた。



高校生によるパフォーマンス



演劇場を飛び出して上演



立ち入り制限解除後の景観向上

NEW 花壇の再生～陽だまりの丘～

アスファルト舗装の暫定工事が終了し、6月上旬から立入制限箇所が順次開放となった。約半年間に渡り立入制限とされていた**大久保地区の顔である「陽だまりの丘」花壇**を再び来園者の目を楽しませる憩いの場として**ボランティアと協働実施**。美しい景観として復活するとともに、ボランティア活動の認知度向上にもつながった。



大久保地区の顔である「陽だまりの丘」

安心・安全な環境の提供

NEW 大規模集会の受け入れ

当園初となる3,000人超の大規模集会の受け入れを行った。公園が出発及び解散地点となるため、約半年前から現場に赴いてシミュレーションを行うなど、「安全計画書」のブラッシュアップを行った。当日は、管理状況（設営、撤去、車両通行、駐輪、ゴミ、音量ほか）を監督。不適正時には主催者へ適宜指導を行い、**来園者が安全・安心に利用できる環境を確保した**。



精査を重ねた安全計画書



当日の状況

地域と防災に取り組む

NEW 戸山ハイツ33号棟との防災訓練

昨年のパークミーティングで**住民に提案した防災訓練を初実施**。災害時の役割、防災トイレなど公園の防災施設の説明や、新宿区とも連携し起震車体験を行うなど**地域住民へ自助・共助の重要性について学ぶ機会を提供**できた。



避難場所へ徒歩で集合



自治会長から訓練説明

Update 近隣日本語学校と連携した防災訓練

4校1,648人の学生に向け公園の防災機能を説明。担当教諭と訓練テーマ、「食料の備蓄」及び「防災について考える」について、**日本語でも理解できる内容とし、説明**。「自助」と「共助」、**異国での災害時の対応を留学生に伝えた**。



パネルを用いた防災の説明

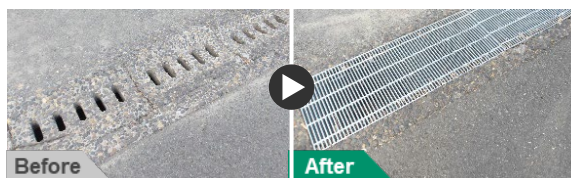


水消火器体験

バリアフリーの取組

NEW 皿型側溝をグレーチングに変更

大久保地区幼児コーナーはベビーカー利用者が多く、広場前園路の皿型側溝に車輪を取られ危険であった。過年度に実施した障害者団体による調査を踏まえ、**皿型側溝を細目グレーチングに変更**し、ベビーカー利用者が安全に利用できる環境づくりを行うと同時に排水機能の向上も図れた。



目の細かいグレーチングを使用



善福寺公園

地域の人・団体と協働で、
武蔵野の豊かな自然と文化を
守り育てる公園



所在地：杉並区善福寺二・三丁目／開園面積：8 ha

公園、地域の人たち・団体と協働し“成果が見える”活気あふれる公園づくりを実現

NEW 近隣小学校と連携でトイレ美化

近隣小学校6年生の総合授業のテーマ、「**地域の困っていることを解決しよう**」と連携し、児童たちと「いつも使っている公園内のトイレをキレイにしたい」を実現。トイレに飾るモザイクタイルアートの壁画を**10人の小学生**と創り上げ、公園の美観向上とともに、**地域の方々に愛着を持ってもらえる環境づくり**に努めた。



「トイレを明るい場所に」と公園の自然をテーマにモザイクアートを展示

Update アートタープ遊具で公園の暑熱対策を実現

猛暑の中子どもたちが安心して遊べる環境づくりを目的に、**暑熱対策**や**日中の新しい利用**を地域ボランティアと連携して実施。去年のアンケート結果を反映し、園路を塞がない**アートタープを設置**。日なたと日陰で温度差は最大2.9℃の効果があり、暑さ対策の貴重なデータ取得するとともに、子どもたちに安全な遊び場を提供した。



安全性に優れ日よけ効果もあり、日中でも利用者が遊べるようになった

Update 近隣各団体と地域活性交流活動を実施

地域住民の**健康促進**と**地域交流の場**として杉並区、東京女子大学などと連携した**大会を2回実施**。各大会約200人の参加者は**外国の方**や**視覚障害者支援施設**も参加し、障害の有無や年齢を超えた**スポーツ交流**が実現。**杉並モルックの聖地**として、公園を起点とした連携が広がり、**コミュニティハブ**としての役割を強化することで地域の繋がりを生み出した。



「ブラインドモルック」
手をたたいて音だけで位置を伝える



外国の方も参加し、
言葉の壁を超えた交流が実現

Update 親子で描くこいのぼりアート

端午の節句のこいのぼりは善福寺・西荻地域にすっかり定着。今年度のこいのぼりイベントは、大人も参加する**写生会**を実施。実施にあたり良好な関係を維持している近隣施設でも広報したことで**約360人**が参加。展示許諾を得た**83点**を**展示した作品展**も開催し季節の風物詩として多くの好意的な声が寄せられた。公園が**地域住民の交流の場**として活用され、地域活性化に貢献した。



こいのぼりは地域の初夏の
風物詩になっている



大好評の写生会は
大人も子どもも参加



様々な課題解決への工夫が実を結び、誰もが楽しめる公園づくりを実現

NEW 安心遊べる芝生をコンテナ上で養生

上の池のあそび場周辺に芝生スペースを設置するにあたり、子どもたちが安心して遊べるスペースと犬の尿による芝枯れの問題を解決するため工夫し、**芝生をコンテナの上に設置**。砂ぼこりを受けず子どもにも**安心なスペースの確保**や、ベンチタイプにすることで**景観を楽しめるスペース**になり来園者のくつろぎの場所となった。



来園者のくつろぎの場所となった「くつろぎ芝生テラス」



NEW 公園から始める犬のマナー改善への第一歩

地域要望と来園者の声を受け、犬の散歩マナー啓発イベントを開催。杉並区動物相談員や獣医師らと連携し、苦情の多いテーマを扱うマナー教室に加え、幅広い参加を促すため、青空ドッグカフェや交流企画、個別相談を展開した。**地域・飼い主・公園が協働し、共生環境の形成と散歩利用者の意識向上**につなげた。



犬関係の団体と協働で開催



園内での犬の悩み事をパネル展示

公園で見られる野鳥や生物の生態、武蔵野の自然に多くの人たちが興味深々

NEW 巣箱の生態を報告、生態展示を実施

「日本野鳥の会発祥の地」として**野鳥の保全活動**に力を入れ、昨年度、11の巣箱作り、巣かけを行い、3つの巣箱が営巣。今年度は、公園内の自然を紹介する善福寺公園ネイチャーイベントで、**営巣した巣箱の紹介や公園内のバイオネストで育ったカブトムシの幼虫の生態展示を実施**。公園で実施した自然保護活動を、多くの来園者へ伝えた。



センターブスで園内にかけた巣箱について来園者に解説説明



バイオネストで育ったカブトムシの幼虫は子どもたちに大人気の展示となった

NEW 実物展示で自然体感、情報コーナー新設

公園内の動植物の紹介などサービスセンター入口に、自然いっぱいの「**生態info**」コーナーを**新設置**。季節の**野鳥、樹木情報を展示**する他、普段は高い所に自生して見えづらい樹木の新芽の実物や、カマキリの卵など展示。**実際に手に取り、自然に触れる**ように工夫をした。公園の自然について周知することで、様々な来園者が地域に残る自然に興味を持つ取組となった。



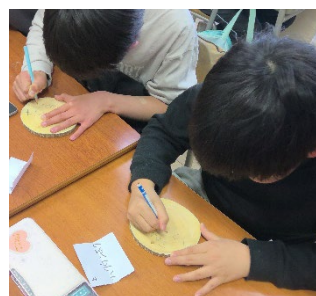
生態情報の掲示や、植物系カプセルトイで自然をアピール



樹木の新芽など実物を展示し、手に触れられるよう工夫

NEW 団体・小学校と協働し樹木に手書き銘板

銘板がない樹木の名前を尋ねる来園者が多く、植生ボランティアの方たちに解決策を相談。どの木が名前の問い合わせが多い樹木かを調べてもらい、その資料をもとに**近隣小学校4年生32人**が発生材を使い**手書き銘板32枚を作成**。掲出後は、「子どもたちが一生懸命書いた手書きの札を読んで樹木の名前を知ることができて、温かな気分になった」と**貴重な「生態info」ツール**となった。



子どもたちが木札の銘板に樹木の名前を記入



植栽管理ボランティアが小学生の書いた銘板を設置



高井戸公園

親子連れをはじめとした
地域ぐるみでつくる、わくわく公園



所在地：杉並区久我山二丁目／開園面積：10.9ha

区立図書館との連携で子どもたちの夢を実現

NEW 公園de映画上映会の実施

昨年子どもたちに行ったアンケート結果のフィードバックとして、**杉並区立図書館と共同で映画上映会を実施**。サービスセンターのホールで、手づくりのスクリーンに映写機で映画を投影。親子で楽しむひとときを提供しただけでなく、**新たな地域連携の創出につなげた**。



公園de映画上映会来場者 42人

夜のサービスセンターに初めて招待

NEW あおぞらおはなし会の開催

図書館連携事業第二弾として、**図書館や児童館で活動する絵本の会**による「あおぞらおはなし会」を実施。図書館になじみのない親子の参加もあり、絵本の読み聞かせや郷土民話の紙芝居などを通じて、**世代間交流や地域に伝わる民話の紹介の場**となった。



あおぞらの下でのおはなし会

公園ニーズを掘り起こし、北地区旧サービスセンターを有効活用

NEW 熱中症予防『涼み処』を展開

サービスセンターが南地区に移動した後、閉鎖していた旧センターの利活用方法として、**「涼み処」を夏季期間中毎日開放**。遊具広場の目の前という好立地を活かして、年齢を問わず多くの利用者に**夏の公園で熱中症予防の場を提供した**。



涼み処累計利用者数 2,740人

夏季は「涼み処」として

NEW 『こども図書室』で地域交流推進

「涼み処」終了後は、絵本や児童書を設置し、週末限定の「こども図書室」としてリニューアル。親子連れを中心に**くつろぎの場所として、また近隣の親子が集う場所として活用**し、旧センターを有効利用してほしいという来園者からの声に応え、地域交流を推進した。



こども図書室累計利用者数 1,546人

秋～春は「こども図書室」として



虫たちにもやさしい公園へ小学校と連携

NEW 虫たちのレストラン + ヤゴのすみかづくり

北地区で本格始動した「虫たちのレストラン」。今年はそのエコパッチエリアにて刈り取った草を再利用し、隣接する富士見丘小学校と協働してプールに浮かべる「ヤゴフロート」を作製した。公園と学校が連携して環境教育と生態系保全を実践することで、持続可能な社会を子ども達が学ぶ、協働体制を築いた。



虫たちのレストランで草を収集

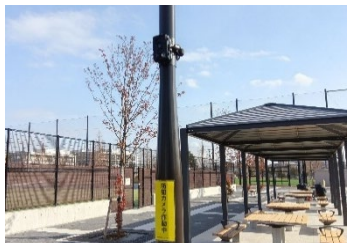


プールに浮かべて生命のゆりかごとした

都と連携し、都民の声に対応した取組みを推進

Update 対話と工夫をかさねて適正な公園管理

夜間のサッカーやスケートボードに対する近隣からの声に対応して、東京都や警察と連携した住民との対話や対策を実施。防犯カメラ等も活用し、迷惑行為を抑止した。また、草丈へのご意見が多かった昨年の反省から、直営と委託による作業をうまく合わせ、草地面積約5.5万㎡に対し、約33万㎡の草刈りを実施したことにより、きれいな公園になったと感謝の声が届くようになった。



防犯カメラを設置して抑止力向上



「伸びる前に刈る」を徹底

特別支援学校の校外授業をプロデュースし、五感を活かした公園体験の成果を創出

Update 防災施設や樹木を五感で体験

都立久我山青光学園とのコラボによる校外授業として、昨年も実施した「触って聴いて樹木体験」に加え、今年は小学部の児童たちに園内の「防災施設を触って体験」を実施。触覚や聴覚など、視覚に頼らずに公園を体感する授業を通じて、公園の樹木や防災施設をぐっと身近なものとして体感する機会を提供した。



樹木を触って体験



初めて触るかまどベンチ

飼い主のマナーアップに向けて杉並区との初連携を実現

NEW 犬のしつけ方教室、意見交換会を開催

杉並保健所と協働して犬のしつけ方教室を開催し、区との連携強化と公園利用マナーの向上を図った。後日、イベント参加者の飼い主と公園職員による意見交換会を実施し、公園・散歩者・近隣住民の三者が課題を共有する場を創出。相互理解を促し、良好な利用環境づくりに向けて地域全体で育む仕組みづくりへの一歩となった。



犬のしつけ方教室を初開催



率直に意見を交換



浮間公園

伝統と新たな文化の融合で、
まちの賑わいを生み出す公園



所在地：板橋区舟渡二丁目、北区浮間二丁目／開園面積：11.7ha

新たな体験型プログラムの提供で、応募好調・参加拡大の成果を創出

NEW 公園マイプランを実施

公園の利用促進のため広く企画を募る「公園マイプラン」をもとに、風車広場で初の「キッズパークシアター」をキッチンカー売上も還元して実施。また、応募者の希望により「ミニライト作り」ワークショップも実施した。「やってみたい」の声を実現したことで、告知から2日で定員に達するなど高い注目を集めたイベントにすることができ、応募者の夢の実現とともに公園の新たな魅力を創出した。



ミニライトづくり



キッズパークシアター

NEW インクルーシブなイベントを開催

一般参加者に加え、北区聴覚障害者協会、北区手話サークルと連携し聴覚障害者にも呼びかけて「あおぞらヨガ」と「パークツアー」をセット開催。また、東京成徳大学手話サークルの学生に日頃学んでいる手話を実践する場を提供した。「パークツアー」では防災施設（かまどベンチ、防災トイレ）を手話やパネルで案内するなど工夫して、災害時における避難行動を考える機会を提供した。



あおぞらヨガ



パークツアー

マナーアップイベントの実施など、利用マナーの適正化

NEW マナーアップキャンペーンの実施

- ① 犬の散歩をしながら地域のお年寄りの見守りを図る浮間高齢者安心センターのイベント「わんわんパトロール」とコラボして、ウンチ袋を配布しながら犬の散歩のマナー啓発を実施。
- ② 警察署主催の交通安全イベントと連携して、園内での自転車運転マナー啓発を実施。
- ③ 公益社団法人日本煙火協会と連携した「花火スクール」では公園初となる花火の安全な遊び方について近隣の親子を中心にマナー啓発を実施。利用者のマナーやモラルの向上を図る取組を行うことで、快適な環境づくりを推進した。



自転車運転マナーアップ



犬の散歩マナーアップ



花火の利用ルールを説明



花火のマナーアップ



多世代が交流するコミュニティガーデンの整備

Update 「1万本のチューリップ」事業

ボランティアと風車広場へチューリップの球根を植え付け、魅力的な空間づくりとともに、参加者が成長を楽しみに再来園するきっかけづくりを継続実施した。さらに**コメダ珈琲と協働**し、店舗花壇や名石花壇に球根を植え付けて**公園をチューリップいっぱい**に飾った。ハート型フォトスポットを**より演出度の高い形に改良**し多くの来園者が記念撮影をしていた。また、ボランティア団体「うきうき隊」の活動をPRし、活動活性化につなげた。球根購入費はイベントやプチマルシェの出店料を充てるなど、少ない資源の中で工夫し、来園者が楽しめる公園づくりを行った。



チューリップ球根植付



公園入口の名石花壇



ハート型のフォトスポットづくり（右は 2025年春の状況）



After

生物多様性の向上に向けた取り組みで、自然理解と環境意識の向上を実現

Update 冬の野鳥を中心とした自然観察会

コロナ以降途絶えていた板橋区立エコポリスセンターと連携する野鳥観察会を復活開催。講師による野鳥を中心とした自然の解説とともに、普段は一般来園者は立入禁止となっているバードサンクチュアリ内でSC職員による**QRコード読み込みによる野鳥解説**の仕組みなどの説明を行い、**浮間公園の自然と環境への取組**を伝えた。



野鳥観察会



二次元コードで野鳥解説

地域の防災意識向上に貢献

Update 近隣町会も訓練に参加

警察、消防、地域と連携した防災フェスタ（約600人）や防災キッズフェスタ（約1,500人）、近隣企業との合同防災訓練（約200人）、警察町会合同水難訓練（約50人）など計4回実施。特に日常で起こりうる水難事故に備えた、合同水難訓練では**新たに近隣町会**に呼びかけ、救助法、心肺蘇生・AED操作方法等の対応能力及び地域防災力の向上が図れ、**防災意識の向上と合わせて共助体制を構築した。**



実践を交えた水難訓練



参加者に防災意識の可視化

落葉に悩む近隣住民へ対応

NEW 地域住民との対話による環境整備

近隣住民より住居の敷地内に、公園樹木の落葉が吹き込んでしまうため、何か対策を講じてほしいとの声を受け、これまでの対策である**落葉ネット**を拡張、補修し、**落葉を軽減**させるために樹木剪定などを実施することで近隣住民からの要望に応え、良好な関係を継続した。



Before



After

樹木剪定による落葉の軽減



赤塚公園

地域とともに、歴史と自然とアートを
紡いでいく公園



所在地：板橋区高島平三丁目等／開園面積：25.5ha

イベントでつながる地域連携と公園の価値向上

Update 五感を使ったアート体験～木々たちの学芸会「東京五感公園」

日常の公園も五感を研ぎ澄ませば新たな景色が見える—そんな体験を届けたい思いから、地元の方々と協力してプログラム内容を一新して、公園×アートをテーマに「東京五感公園」を開催。会場づくりから運営まで近隣の中高生やボランティア10人が協力。イベントでは、QRコードにスマホをかざし木の自分語りを聞く「木のつぶやき鑑賞ツアー」、園路にチョークで書くアート体験や参加者の声をはっぱに書き込み1本の木を創り上げる「子どもの遊び場」、自分で作って、焼いて、食べる「焼き芋食べよう」等様々なコンテンツを用意し、見る・聞く・嗅ぐ・味わう・触れる体験を通して、公園の新たな魅力を発見できるアート空間を創出した。



イベント参加者 約380人
QRを読みこむと木のつぶやき（物語）が聞ける



木になりきって一言



園路一面をアートの世界に

誰でも楽しめるアートや自然コーナーの拡充

NEW 来園者をおもてなし！受付ホールのリニューアル

サービスセンターホールにクラフト工作スペースを設置し、親子を中心に多くの来場者が作品づくりを楽しみ、自然や樹木への関心を高めるきっかけづくりができた。生態INFOコーナーでは自然保護活動や季節の草花を紹介し、地域図書館と連携した「小さな図書館」を設置するなど、学びと交流の場を提供した。さらに特別支援学校の実施し、個性豊かな作品が来館者の注目を集め、公園の魅力向上と地域教育機関との連携強化につながった。



思い思いのアイデアあふれる作品でいっぱい



特別支援学校と連携した作品展示



発生材であかつかちゃんづくりに没頭



自然等の絵本を配置した「小さな図書館」

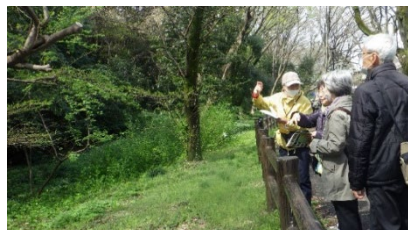


ボランティアや高校生と取り組む生物多様性事業



生態保全をPRする取組

大門・城址地区にて、「ニリンソウ月間」を開催。保護活動のボランティアによるガイドツアーを実施。**新たに板橋区役所で鉢植え展示による広報を展開し、公園が23区内随一のニリンソウ群生地であることと武蔵野台地に息づく自然の魅力を発信した。**



恒例となったニリンソウガイドツアー



「個性爆発！な植物」と出会う旅

崖線地区で職員と自然観察指導員による**ガイドマップを用いた有料の野草観察の初ガイド**を行い、多様な自然環境の魅力を紹介。散策後は赤塚名物を添えたお茶会を開催し、**都市にしながら自然と地域文化を体験できる機会**を提供した。



ピクニック気分でおもてなし



落葉で花壇づくりに貢献

高校生ボランティアと園内の落枝を利用してバイオネストづくりを初めて実施。高校生からも「回収した落葉を醸成して花壇の肥料にできるなんて無駄がないですね」等、落葉の再利用に興味を示し、資源を大切にすることを育むことにつながった。



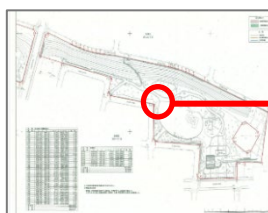
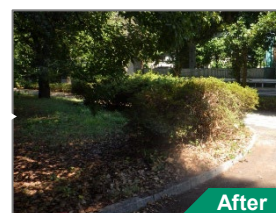
みんなで公園を作っていく

地域一帯で思いをつなぐ ～パークミーティングから生まれた提案の実現～



安全・安心な公園へ一歩ずつ

より良い公園づくりに向けた「パークミーティング」をきっかけに、近隣住民と「気になる箇所の情報収集の方法」として公園崖線地区の白地図を配布。**安全管理の強化と地域の不安解消**に努めた。住民発案の成人式に合わせて「二十歳のつどい」フотスポット設置やキッチンカー出店の際の飲食スペース設置を実現するなど近隣住民の**希望を叶えることも実施。**地域連携防災訓練では、公園の防災機能や役割を共有。住民が公園を経由し避難所まで進む避難ルートを確認し、防災意識向上が図れた。



住民に白地図を配布し、越境枝の剪定や落葉の処理等を事前に把握して作業実施



シンボルの噴水をバックに二十歳のつどい



地域住民に災害ベンダーの説明

広大な斜面地を持つ公園の緻密な維持管理

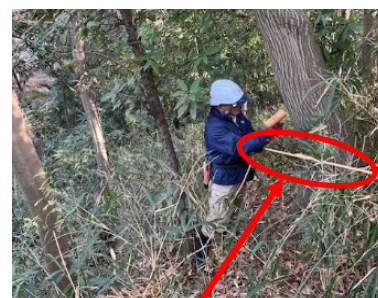


崖線における安全性向上の管理

番場地区丘陵部の踊場整備や崖線斜面の擬木柵を改修し、**景観向上と利用者の安全性を強化**した。また、倒木防止に向け緊急樹木点検を実施し、普段立ち入れないバードサンクチュアリを含む園内**約3,000本**を確認した。適宜支障木を342本処理することで、**公園全体の安全管理と維持水準の向上**を図った。



造園会社とも連携して崖線エリアを点検



崖線ではロープで安全を確保して実施



石神井公園

武蔵野の面影を色濃く残す緑と水辺、
歴史と自然が調和する憩いの空間



所在地：練馬区石神井台一丁目等／開園面積：22.6ha

地域にねざした公園運営の推進

NEW 「レトロピクニック」～公園マイプラン～

昭和100年の節目に合わせ、住民提案による昭和フォークソングライブを中心としたイベントを公園で開催した。応募者と連携するとともに、公園のネットワークを活用した駄菓子・縁日ブースや昔遊び体験などレトロな要素を加え、親子で楽しめる内容とした。公園マイプランの趣旨に沿い、**地域ニーズを踏まえた企画から実施**まで協働で進めたことで、**公園を基盤とした地域活性化**に寄与し、世代を超えた交流と共通体験を創出した。



「昭和のフォーク」で出演者の輪が広がった



子どもから大人まで楽しめるイベントに

公園ならではのプログラムでおもてなし

Update 公園を子どもたちの居場所のひとつに



木のプレートに思い思いのペイント

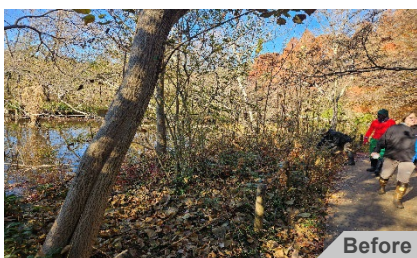


枯れ枝を集めて火起こし準備

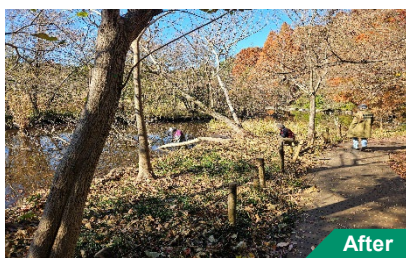
地元の子ども食堂運営者と初連携し、様々な事情で外出する機会が少ない子どもを対象に、公園を活用した体験型イベントを実施した。かまどベンチでの火起こし体験や、発生材を用いたコースター・名札づくりなどの自然素材を活かした工作など多様な活動を通じて自然と触れ合う機会を提供した。児童は主体的に取り組み、満足した様子で帰路につくなど、**公園が地域の子ども支援**に寄与した。

公園の持つポテンシャル「生物多様性」

Update ボランティア組織「生物多様性部」との取組



Before



After

三宝寺池北側の実生木処理による景観回復

公園ボランティア「石神井生物多様性部」と**年間41回の協働活動**を行い延べ252人が参加した。三宝寺池池畔では希少種を保全しつつ実生木を処理し、生物多様性の維持と景観改善を推進した。また、都事業で採取した埋土種子を水辺観察園に撒き出しを実施し、タコノアシやヒメクリ等が出現。三宝寺池に眠る希少種の保全と育成に寄与した。



地域と取り組む防災の広がり

NEW ふるさと文化館との連携強化 ～防災学習会～

パークミーティングでの提案を受け、ふるさと文化館職員と地域サポーター向け防災設備勉強会を初開催。**設備の存在を初めて知る人**も多く、講義と体験を通じ防災対応力向上に繋がり、参加者からは学びが多いとの声が寄せられた。



防災施設の使用方法を学んだ

NEW 未来を守る力、ここから。始まりは5年生

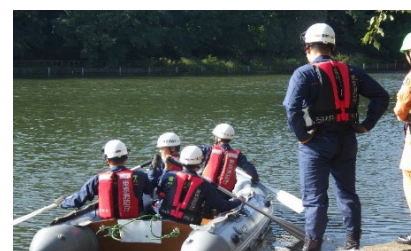
近隣小学校5年生を対象に、公園の防災設備を活用した体験型学習会を実施。四阿の組立てやマンホールトイレ設営を体験し、非常時に主体的に行動する意識を育成した。**学びを家庭へ広げようとする姿勢**も見られ、防災教育の効果が公園から地域へ波及した。



実際に使って必要な備えを考えた

Update 消防と連携した水難救助訓練

石神井消防署と連携し、水難事故時の救助体制を強化した。石神井池ではポンプ車停止位置とボート浮艇場所を2か所選定し、三宝寺池では消防・救急車両の進入経路を2系統確保。**SC職員の通報・誘導等の役割も明確化**し、安全対策を向上させた。



消防と車両の進入経路の確認を行った

今ある施設の利活用～くつろぎの場～

NEW くつろぎ階段で癒しの時間を提供

公園の野外ステージにある階段式観客席を活用して、**来園者が気軽に過ごせるの場「くつろぎ階段」**を提供した。実施にあたり、階段中央部をクエン酸を用いて洗浄し、清潔で快適な空間を創出。また、周辺樹木の手入れも行い、木漏れ日を感じられる空間とした。読み聞かせイベントも開催し、親子でくつろげる時間を提供した。



ラグの上で自由に絵本を堪能



あおぞら読み聞かせイベントも開催

住民や来園者の声を反映した維持管理

Update 近隣と自然環境に配慮した維持管理

石神井池では昨年度、ヒメガマの綿毛が周辺住宅や歩行者へ広範囲に飛散し、景観や住環境への影響があったことを受け、今年度は綿毛形成前の刈取りを実施するとともに、水中ヘマルチングシートを敷設し繁茂抑制を図った。さらに、公園ボランティア「石神井生物多様性部」と協働してマコモを移植し、**植生の適正化と水辺環境の改善**を推進した。作業にあたっては**水鳥等の生息環境に配慮**し、一部の植生帯を残すなど自然との調和にも努めた。これらの対策により、**綿毛飛散の抑制と周辺環境への影響軽減**に加え、生物多様性の向上にも寄与した。



ヒメガマの繁茂はボートの係留にも影響



シートを敷設しボート係留場所を確保



ヒメガマが繁茂し池面が見えなくなっている



作業後、見通し・景観の向上を図った



大泉中央公園

モノと体験。ふたつのリアルで、
自然と防災を楽しく遊び学べる公園



所在地：練馬区大泉学園町九丁目／開園面積：10.3ha

行政の垣根を越えて住民のニーズに応える。地域で作る防災マップ＆防災イベント

NEW パークミーティングの要望を形に。都県境に こたわらない住民目線の防災マップ作成

園内で活動するNPO法人・ボランティア団体・隣接した2つの公園・近隣町内会等8団体で意見交換をするパークミーティングを実施し、「防災情報は自治体ごとに発信されバラバラ。地域も内容も分かりやすくまとめたものが欲しい」という、都県境ならではの要望を確認。参加団体に加え、練馬区・和光市の危機管理室担当者とも協議を重ねて**都民・埼玉県民に関わらず、来園者や周辺住民が楽しみながら防災について学べる広域マップを作成した。**

完成した広域防災マップは親子連れの来園者や近隣の学校関係者に特に好評で、来年度の避難訓練に活用したいとの声をいただいた。また、練馬区・埼玉県和光市担当者と、今後日常的に情報交換を行い**地域一体となつての防災対策やイベント開催など連携を強めていくことで意見が一致した。**広域防災マップをきっかけに、今まで直接的な関わりが無かった周辺自治体の担当者となつたりを作ることで、より一層地域のニーズを集めて反映させる公園づくりの第一歩となった。



ファミリー層向けに、可愛いイラストとポップな色使い、学習マンガのように子どもに語りかける文面で作成



地域の要望を反映したマップをテーマに、今後の展望を協議した第二回パークミーティング



NEW 地域住民から公募した自主企画を公園のサポートで実現！公園マイプラン「防災ピクニック」

子どもと家族の防災啓蒙活動を行っているNPO法人より「**地域の子育て世代が防災を考えるきっかけをつくりたい**」との提案を受け、展示や説明を聞くだけでなく、楽しみながら参加できる体験型防災イベントを実施した。マイプランの目的である“利用者が公園で夢を叶える場づくり”にも合致し、参加者から好意的な声が多く寄せられた。子どもからは「**公衆電話やテレホンカードを初めて触った**」との声や、保護者からも「**チェーンソーを扱える職員がいると災害時に心強い**」「**公園と防災を結びつけて考えたことがなかったが、知ることで安心できた**」と好評だった。



防災コンテンツ7つを体験するスタンプラリー



親子で確認。初めての公衆電話でも次からは大丈夫



職員によるチェーンソー実演



自分でみる・さわる・たのしむ体験とコレクションカードで、生物多様性を楽しく学ぶ

Update 知的好奇心とコレクション欲を刺激する「いきものずかんカード」と体験型観察会で、地域に生き物ハカセの卵を生み出す！

令和2年から続く体験型観察会に今年度より公園オリジナルカード配布を導入。観察した生き物のカードがもらえる仕組みが、参加者の満足度向上や知識・興味の深化、**収集意欲**による**リピート促進**、**口コミでの新規来園につながった**。さらに職員や生き物との交流を通じてマナー向上や自然への愛着が育まれ、保護者間でも「生き物好きなら大泉中央公園」と話題になり、**公園のファンづくり**に大きく貢献した。



同じ種でも卵・幼虫・蛹・成虫それぞれの「すがた」のカードがあり、「すがた」によってカード裏の色が異なる



観察した生き物のカードをもらう参加者



観察会の常連は、大量のコレクションが自慢

段ボールも発生材も資源循環。遊びにアートに花壇管理にとことん活用

NEW 雑草抑制＆保水力UP＆土に還る 一石三鳥のマルチング材「段ボール」を活用

花壇のマルチ(根覆い)として段ボールを導入。雑草抑制・保水力の向上で、35℃を超える酷暑の中でも花苗の健全な生育と除草・灌水作業の効率化ができた。撤去せずとも数カ月後の植替え時には土に還るため、**循環型維持管理手法確立の第一歩**となった。



花苗植付後千切った段ボールを敷きつめ、その上に腐葉土を敷設

Update 剪定枝はメダルや絵馬に、木の実実はアート、落葉は落ち葉プールや焼き芋イベントに

剪定枝は輪切りに加工し、イベント参加賞の「メダル」や、願い事を書く絵馬として来園者に提供。どんぐりやトチの実などの木の実実はクラフトイベントの開催や、近隣の支援学校の工作の素材として活用。自然の素材に親しみ、公園の木に愛着を持つ機会を提供した。



SC前の木に、来園者が願い事を書いた絵馬を展示

育てる楽しさ・食べる喜び。地場野菜育成・食育プロジェクト

Update 公園に来るたびに、自分が種をまいた野菜の成長が楽しめる「キッズファーム」

子どもの外遊び活動を支援するNPO法人与自然体と協働し、はらっぱの一角を使用した畑で野菜作りを実施。枝豆の種まき・収穫、大根の種まき・収穫のイベントを年間を通して4回開催し、**累計126人の参加**があった。**農業に頼らず害虫を避けるコンパニオンプランツも活用し**、地場野菜の育成・地域コミュニティの活性化・**地域の子どもたちの食育に貢献した**。



収穫したての枝豆は産毛がチクチク！



野菜嫌いな子も、育てた大根はペロリ



練馬城址公園

地域とともに考え、つくる、
水と緑のふれあい公園



所在地：練馬区春日町一丁目、向山三丁目／開園面積：3.2ha

地域と連携したポジティブな抑止力で維持管理を実現！

NEW 「カラフルな木柵で園内をにぎやかに」

エントランス周辺でのゴミ投げ込みや植栽地への立ち入りを改善するため、地元の就労支援センターと連携し、不要となった支柱を再利用したアート木柵48本を園内に設置した。**園路と植栽地の境界が視覚的に明確化され、利用者のポジティブな意識づけ**にもつながった結果、昨年度より**ゴミの投げ捨てが減少**できるとともに、障害のある方々の社会参加の機会創出にも寄与した。



花壇との境界がにぎやかに



就労支援センター利用者と協働で設置

公園×まち×ひと 地域連携による公園の魅力向上へ

NEW 地域連携夜間パトロールの実施

パークミーティングで把握した夜間の不適正利用への対応として、町会等と連携した夜間パトロールを計**12回 延べ87人で実施**。20時～21時まで地域住民と巡回することで、園内の利用状況把握と治安強化を図った。**隣接町会や学校保護者の参加**により未成年への声掛けの効果があり、夜間の適正利用と来園者の安全確保に寄与した。



未成年者への声掛け



公園管理状況を町会に説明

楽しみ方の新たな提供

NEW 芝生の上でパークピラティス



青空の下で気持ち良く運動

芝生の上でピラティスを体験し、**誰もが健康増進できる機会を提供**。春と秋に2回実施し、56人が参加。空が広く見える公園ならではの楽しみ方を、新たに提供することができた。参加者からは「またやってほしい」とリクエストされる程好評だった。

Update 地元野菜をPR！江戸東京野菜フェスタ



行列には外国人の姿も見られた

地域の農家や農協と継続的な協力関係を構築してきたことで、**地域農家、公園ボランティアと初連携した江戸東京野菜の直売や豚汁の炊出しを実施**。地域に根付いたプログラムを提供したことで、公園を基盤とした地域の活性化に大きく貢献した。



防災機能の普及啓発を！地域と連携し防災力UPへ！

Update

リクエストに応える防災施設体験会

練馬区や小学校、高齢者施設等の地域と連携した防災訓練を計6回開催、514人が参加した。少人数でも開催できる事を地域の団体に案内。防災施設の解説だけでなく施設の展開訓練や防災クイズラリー、防災MAP作りなど、参加者の年齢などを考慮して組み合わせ、各団体の要望に応えるプログラムを提供。誰でも気軽に参加でき、防災公園の普及啓発につなげた。



練馬区在住の子どもたちにかまどベンチの説明



地域の保護者と協働で防災野外卓の展開

夏は暑い！でも公園で遊びたい！！

NEW

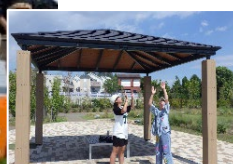
暑い夏でも遊べる遊具と休憩所の設置



試作水遊具で遊ぶ多くの親子連れ



日除けテント



ミスト



遮熱塗装

都と連携して、遊具メーカーの試作水遊具の実証実験に協力。8月21日から9月15日までの26日間設置し、日陰の少ない公園でも多くの利用があった。保護者からは「水遊びができる遊具は大変ありがたい」「仕掛けが面白い」等、喜びの声や来年も継続を希望する声を多数いただいた。他にも遊具広場横にテントを2基、クッションフロアの遮熱塗装、四阿にミスト1基とグリーンカーテン1基を設置し、熱中症予防対策を強化し、安心安全に努めた。

未来を担う子どもたちへ！生物多様性の向上と普及啓発

Update

バイオネストを活用して生き物観察や資源循環化を促進



バイオネストに棲みついた生物を観察



新たに設置したインセクトハウス

公園ボランティアと協働し、多様な生き物がみられる公園づくりに取り組み、植物観察ゾーンとバイオネストのモニタリングを毎月実施した。自然観察会では剪定枝や落葉等の発生材を使用した、生き物の棲み処となるバイオネストを活用。公園の資源循環を生かした環境教育を展開した。また、10月の観察会に参加した40人の子どもたちとインセクトハウス2基を新設し、体験を通じて未来世代への生物多様性の普及啓発を強化した。